

## 海の作文コンクール講評

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

日本は海に囲まれた国です。海は私たちにいろいろな姿を見せてくれます。南国の温かく透き通った美しい海、北国の紺碧の冷たい海……どんな表情を見せても海は多くの人に愛されています。

みなさんは、「海」をテーマにして文章を書くことで、海のすばらしさや、海を大切にしたいという気持ち、海からのメッセージなどをあらためて感じる事ができたのではないかと思います。

これからも豊かな感性を大切にしてほしいと思います。そして、これからも海を愛する気持ちを持ち続けてほしいと思います。

### 金賞 米田小学校 山下 奏都 さん（5年）

山下さんは海運についてとてもよく理解しています。海運の特徴や役割だけでなく、その必要性やメリットについても考えています。また、外航客船への強い憧れがあります。海の大きさを感じながら豪華客船で世界一周をしたいと夢は素敵ですね。外航海運と内航海運の連動性、環境問題、海を通じての各国の協力体制づくりなど、作文の中で山下さんはいろんな提案をしています。海を心から愛している山下さんには、海に関わる仕事をするという夢を実現してほしいです。

### 銀賞 御影北小学校 樫村 夏帆 さん（3年）

小学生になって初めての海水浴。樫村さんは、ゼリーのようなクラゲ、黒い物体に見えたイカ、大きなまき貝と出合ったときのおどろきやときめきを素直な表現で書いていました。海は、生き物以外にも、大波が作った水のトンネル、満ち潮によって姿を変える海の姿など、たくさんのプレゼントをくれました。樫村さんの目には、そのすべてが新鮮に映ったのだと思います。家族と過ごした海辺の1日は、かけがえのない夏の日の思い出になったと思います。

### 銀賞 江井島小学校 川上 芽生 さん（3年）

川上さんは江井島の海を見ていると、心が落ち着いてきます。ふるさとの海はあたたかさや「がんばろう」という気持ちを心に運んでくれます。それに、江井島でとれるタコで作ったタコめしは、ほっぺたが落ちるほどおいしいそうです。川上さんにとって江井島の海は、心をいやしてくれる大切な存在なのだと思います。川上さんの作文を読んで、「やっぱりふるさとの海に勝るものはないんだなあ」ということを感じました。

### 銀賞 米田小学校 大嶋 結衣 さん（6年）

震災の被害にあった漁師さんの「海には感謝している」という言葉に大嶋さんはおどろきました。家族を奪った海に、なぜ感謝できるのだろうと思いました。しかし、漁師さんの生き方や考え方に寄り添うことで、漁師さんの思いや願いに気づくことができました。海は時に優しく、時に厳しく私たちを受け入れてくれます。東日本大震災は悲しくて、つらい出来事でしたが、私たちはこれからも海と共に生きていくのだと思います。